

ごあいさつ

北海道教育大学附属旭川中学校

校長 川邊 淳子

日頃より、本校の教育・研究に関しまして、ご理解・ご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。4年という長きにわたり、コロナ禍の中での学校現場での教育・研究を行って参りましたが、多くの制限を受けながらも、常に新たな取り組みに挑戦し、創造して参りました。

本年度の研究は、昨年度までの3年間にわたる『質の高い学び』の創造における研究の成果と課題を土台に、新たに、「仲間との協働を通して個を磨く生徒の育成～学びのセルフ・マネジメントの工夫～」とした1年目にあたります。文部科学省でも、平成28年答申で2030年の社会と子供たちの未来について、次のように記載しています。「社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっていており、しかもそうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれ、難しい時代になると考えられるかもしれない。しかし、このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、私たちの社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる。」さらに、令和3年答申では、目指すべき新しい時代の学校教育の姿として、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」が提言されました。この「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、双方が往還的に影響し合っこそ意味を持つものであり、これまで培われてきた工夫とともに、ICTの新たな可能性を指導に生かすことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが、生徒自らの学びのマネジメントに繋がっていくと考え、本紀要は、その成果をまとめたものとなります。

本年度からは、コロナ禍でも行って参りましたオンライン型に新たに来校型での「授業公開」「研究協議」を併用で行うこと、全教員が授業公開等を行うことを目指し、3期に分けての実施を行って参りました。共同研究者や助言者の皆様、ご視聴・ご参加くださいました皆様に、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

今年度からは新たな研究の始まりとなりますが、今後の研究の拠り所となり基盤となりますよう、また、理論と実践を往還する研究とさらになっていくようにと願っております。まだまだ課題も多くございますが、その課題こそが今後の研究の原動力ともなって参ります。

本紀要につきましても、忌憚ないご示唆をいただけましたら幸いです。